



パソコン利用時は読み上げソフトを使う。時間短縮のために常に倍速設定。それでもきちんと聞き取ることができるという。

いつの日か誰もが普通に働ける世の中にしたい

るのをみんな知っているの、人には話にくいことも私には話しやすいですよ。そして、ノーマライゼーションについて知ってもらうための啓蒙活動。これは会社のCSR活動の一環でもあります。社内外向けの体験会や研修会、小学校を中心とした福祉教育の訪問授業など、最近は外出も増えています。

以前の私は、とても取材なんてしていただけるような人間ではありませんでした。目が見えなくなり、ようやくひとりで外を歩けるようになった頃、道行く子どもたちが「こんにちは」と声をかけてくれたんです。そのひとことが私を変えてくれたんです。自分は見守られているんだ、と周りの人たちに素直に感謝できるようになり、人には誠実に接しないといけないと思える

ようになりました。会社にも感謝しています。今の私があるのは、この会社が私の提案を聞いて可能性を試してくれたからにほかなりません。今は会社に来るのが楽しくてしかたがないです。普通、企業側も障がい者側も、自分たちが普段どんな仕事をしているのかを主張することってあまりないですよね。私は、目が見えなくてもこんなことができるんだぞ、ということをもっと発信していきたいと考えています。私が勤務している「新宿」という地域には「視覚障がい者が多く集まる」という特徴があります。これは日本点字図書館をはじめ、視覚障がい者を支援する団体や、視覚障がい者当事者団体などがたくさんあるからです。これに課題意識を持ち、当社のCSRの一環として、「視覚障がい者理解」の取り組みを積極的に進めています。地域の小学校を中心に福祉教育訪問授業や地域イベントへの協力や参加など。これらの活動により通動中にも交流をした子供たちからは「木暮さん！」と声をかけていただけるようになりました。入社した当初、今のように充実した自分の姿は想像できませんでした。だから5年、10年後にどんな未来が待っているのか楽しみなんです。協力者や理解者を増やして、いつの日か、障害者雇用促進法や障害者差別解消法がなくても、障がい者が一般企業で働くのが当たり前の中になっただけです。

Interview

私の可能性を試してくれた会社に、感謝しています。



株式会社アクトコール
HRチーム
木暮 雅寿さん

木暮さんは、2010年に糖尿病からの合併症で失明、東京視覚障害者生活支援センターで2年半の機能訓練と就労支援を受けたのちに、住宅関連のコールセンターの運営をはじめとするさまざまなサービスを展開している、株式会社アクトコールへ入社しました。それから3年半の業務経験を経て、いまや会社に欠かせない人材として、社内にとどまらない活躍を見せている木暮さん。障がい当事者の視点から、障がい者雇用について語っていただきました。

多岐にわたる職務を自分から提案して実行

私は、就職活動を始めてから就職まで2年半もかかっています。70社くらいに履歴書を送ったのですが、採用に至った企業はありませんでした。全盲で、週に3回人工透析を受けなければいけない身体ということもあり、企業としてもハードルが高かったのでしょう。当社の説明会に参加したときには就職はほぼ諦めていて、ろくに企業情報も調べなかったくらいでした(笑)。なぜ私を採用してくれたのか、当時の採用担当者に聞いたら「木暮さんならこの会社になにかを与えてくれそうな気がしたから」ということでした。私のことを、障がい者としてではなく、ひとりの人間として見てくれていたんです。「なにをしてみようかは、これから一緒に探していきましょう」という言葉がとても嬉しかったです。現在の業務は多岐にわたっていて、まずコールセンターでの電話対応の品質管理。目が見えないほうがいいろんなことに気がつけるのではないかと、いう発想で、私から会社に提案しました。今は新入社員の電話研修も担当しています。それから、社員との面談も私の業務です。仕事の愚痴を聞いてガス抜きするみたいなことですね。私が普段から上司にも言いたいことを言っている

同僚の声



株式会社アクトコール HRチーム 佐藤 文香さん
株式会社アクトコール HRチーム チームリーダー 小内 涼さん

佐藤 木暮さんは、足音だけで誰かわかるんですよ。実は目が見えていないんじゃないかと思うこともしょっちゅうです。そんな木暮さんですから、つい私も障がいがあることを意識せずに接してしまいましたが、それが当たり前なんだということに気づかせてくれたのも木暮さんでした。

小内 いつもはただの変なおじさんですが(笑)、いざというときには頼りになる存在です。これからも、木暮さんらしく働いてほしいですね。それが、暮らしを豊かにすることを目指す、アクトコールらしさでもあると思っています。